

**Y K K****読もう書こう考えよう**

みなさんこんにちは、図書館担当の伊丸岡です。1・2月合併号です。

新しい年が明けました。この「新し」はもともと「あらたし」だったと知っていましたか？万葉集の時代(上代)には「あらたし」だったのが、平安時代(中古)になって「あたらし」と変化したものらしい。



3年生は共通テストお疲れさまでした。これから試験のみなさんも頑張ってください。今回は、第3期購入図書を紹介しします(巻末)。一度来館して手に取ってみて！

冬至も過ぎ、年も改まり、なんとなく気分も明るい方へ向かう予感のする時期でもあります。まだまだ厳冬真っ盛りの時期ながら、「冬来たりなば、春遠からじ」という言葉も思い起こされます。

雨 返 し

「あまがえし」。この言葉を知っている人は、内陸にはほとんどいないようです。海岸線でも、もう知っている人は少数になってきているのだとか。ボクは使うんだが。

冬期間、雨になるような暖気が入った後、急速に寒気が入り込み、猛吹雪になるような気象現象を「雨返し」といいます。『にほん語お福分け』の著者、藤田栄也は、「とても美しい言葉だと思う」といいます。氏は1931年の生まれ。少年時代にはよく使っていたそうです。いかにも雪国らしい言葉で、青森でも使われていたそう。気象協会に問い合わせても、この気象にぴったりの言葉はないのだそうです。たしか、菅井貴子さん(現在UHBで気象予報士をされています)もどこかで言っておられたような気がします。

『にほん語お福分け』は、2003(平成15)年～2006(平成18)年、北海道新聞に連載されたエッセイ「ことば徒然草」をまとめた1冊です。この連載、ボクは愛読していました。もちろん、単行本になったときにはすぐに購入しました。趣のある、日本語にまつわるエッセイが160編あまり。いい本です。この中に「雨返し」の1編が載っています。氏は、この言葉が広く使われるようになることを願っていました。ボクもそう思います。「きょうはやけに暖気だな。あした雨返しがくるぞ」なんて言うのは、まさに生活が生んだ言葉だと思います。

『にほん語お福分け』 藤田栄也 柏艸社 ⇒800(言語/日本語)の棚

う る か す

方言だと思っていました、「うるかす」。

愛読書『北海道海岸方言辞典』には【うるがす】というなまった見出しで、「水につける・水に浸す」とある。

一方、『広辞苑』『大辞林』そして『日本国語大辞典(略して日国)』といった大型の辞書にはちゃんと載っていた！漢字もあって「潤かす」と書くらしい。ただし、『明鏡』『新明解』『三国』といった小型辞典には載ってなかったけれど。

『広辞苑』・・・水に浸して軟らかくする。ふやかす。

『大辞林』・・・水の中に入れて水分を吸わせる。主に東北・北海道地方でいう。

たしかに。国語便覧の表紙見返しの「方言地図」に、仙台地方の方言として「うるかす」が挙げられていました。



卵焼きを焼いたフライパンをすぐ水でうるかしておく。鍋でも茶碗でもなんでも使ったらすぐにうるかしておく。すると洗うのがすごく楽ですよ。ところで「お米をうるかす」なんて、今の人は言うのかしらん？

過日、しばらくの間「兼業主夫」をしていたのだけれど、つくづく思ったのは、将来、独居老人になったら、こうして「一日中、一言もしゃべらない」日が続くのかしらん、ということ(テレビを見て一度だけ声を出して笑ったのが、「まいあんつ」という女性の芸人でした)。

2019(令和元)年、65歳以上の人口が総人口に占める割合(高齢化率)が28.45%で、4人に1人以上。2030年にはこれが31.8%、国民の3人に1人が65歳以上の高齢者となるのだそうです(厚労省)。

これからは「おしゃべりロボット」の需要もあるだろうな、とつくづく思った次第。



オホーツク海側では流氷が接岸し、一気に気温が下がります。日本海側ではとにかく吹雪く。2月は、1年のうちでももっともしばれ、局地的な**ドカ雪**もあるかもしれません。が、3月になると急速に寒さも緩む日が出て来ます。もう少しの頑張りです。

ボクは中学時代、ウソじゃないけれど登校時、北西の吹雪に向かっていくんだけど、息がでないから後ろ向きに歩いて登校したこともあります。その頃からボクの後ろ向きの人生が始まりました。恐ろしいもんです。育った環境というものは。

さて、「きさらぎ」の語源の一つに「衣更着」というものもあります。寒さに、もう一枚重ね着をする、というのです。なかなか洒落た解釈です。また、「1月行く」「2月逃げる」「3月去る」などともいわれ、年が明けてからの3カ月は年度末にも当たり、慌ただしく過ぎてゆくことを言い表しています。確かに2月は日数も少なく、あっという間に過ぎてゆく感があります。

2年生は、3年生0学期などとも言われ、受験生学年としての早めのスタートを促されます。なんでも準備、スタートは早めにするのが大事ですね。植物も、この「寒」の時期に、梅などの木々は花芽の準備をし、イチゴのような越冬作物は、生長の準備をしているのです。人間も、かくりたいものです。



～ ことばつれづれ ～

ジョンバ

驚きました。まさか「**ジョンバ**」が通じないとは！北海道の人には当たり前田のクラッカーとばかり思っていたのですが、「ジョンバ」って言わない人がいるなんて。

12月23日のあさ、「タベの風は強かったですねえ(13cm以上の風が吹いていました)」
「出勤するとき、近所のそこら中にジョンバが転がってました」・・・ここで「ジョンバ」が通じないことが発覚！子どもの頃からなじんできた冬の生活必需品の名が通じないなんて！嗚呼。



どぶ漬け

「どぶ漬け」って、聞いたことありますか？もしかしたら、農家の方は知っているかもしれませんね。

朝日新聞別刷be紙に、国語辞書編纂者の飯間浩明氏の「街のB級言葉図鑑」というコラムが連載されています。毎回楽しみに読んでいます。**12月17日**には「どぶ漬け」が紹介されていました。

東京日本橋の天ぷら屋で「揚げたての天ぷらを、どぶ漬けのお酒と共に楽しめる」というポスターを見たという。辞典(三国)に当たってみると、「汁気の多いぬかみそ漬け」と書いており、先の天ぷら屋で、酒瓶をぬかみそに漬けるのはどうも変だと思ったそうです。そこでインターネットで検索すると、露店などでジュースを冷やす水槽のことを「どぶ漬け」という事が解ったのだとか。

しかし、この辺の農家さんでも、たとえばトマトなんかの育苗ポットを、畑に定植する前にバットごと水槽にドボンと漬けて水を吸わせることを「どぶ漬け」って言うようです。もちろん、ホントのどぶの水に漬けるんじゃなくて、きれいな水ですよ。

つぎ足しのタレは腐りにくいのか？

10月29日の**朝日新聞別刷be紙**に、神奈川の高3生から「つぎ足しのタレは腐りにくいのか」という質問があって、「DO 科学」というコーナーで解説されていました。

なるほど、よく聞きますね、創業以来何代も続く秘伝のタレ、とかね。



ボクもこの学校に転勤してきたとき驚いたことがあります。それは給湯室の電気ポットのお湯(水)が、つぎ足し、つぎ足しの「先祖伝来秘伝のお湯」みたいだったことです。ずーっと電気が入っていて高温ならばまだしも、夜間は電気コードを抜いているので湯温は下がります。ポットを洗うとか水を入れ替えている様子もないし、夏場なんか大丈夫かな?と思いました。注ぎ口もいつも小汚かったしね。

前の学校には毎日ポットなんかをきれいにしてくれる先生がいました。ときどき逆さにして乾燥させてもいました。その前もそれ以前の学校にもそういうしてくれる職員の方がいたように思います。何十年もそういう方々の恩恵を蒙っていたんだなと思いますね。

みなさんも働くようになれば分かると思うけど、どこの職場にも、人知れず多くの人のために尽力してくれる人っているもんです(そういう人の存在に気づける人になってね)。逆に、決められて(割り当てられて)いる掃除当番さえも忘れて、放送で呼び出されている人も時々いるけど、カッチョ悪いことだと思いますよ。

人の上に立つよりも、人の役に立つ人になりたい。そう思います。

さて、今回は、以下にボクがお勧めの読み物を特集します。『度十公園林』から『芋ようかん』まで。ほかに『母』(三浦綾子)、『津軽』(太宰治)、『藪の中』(芥川龍之介)、『田舎教師』(田山花袋)、重松清などなど、もっとお勧めがあるのですが、また今度。

みんなにデクノボーと呼ばれ

宮沢賢治の「雨ニモマケズ」の詩はもちろん、知っていることだろうと思います。

賢治の死後、発見された手帳に書き付けてあったものだと思います。その長い詩の末尾に、

ミンナニデクノボートヨバレ

ホメラレモセス

クニモサレス

サウイフモノニワタシハナリタイ

とあります。

ボクの最も好きな賢治の作品に、^{けんじゆう}『度十公園林』という短編があります。主人公・度十は、まさにこの詩の「デクノボー」ではないかと思います。それは決して侮蔑の意ではなく、賢治が理想とした生き方を体現する愚直な人物像です。ぜひ、読んでほしいですね。宮沢賢治全集にも入っていますし、絵本の棚にも、入っています。この作品もまた、賢治の死後に発見されたと言います。

今回は、「企画展」の棚に出しておきますね。ぜひ一度、読んでほしい。

『度十公園林』

宮沢賢治

各社

⇒個人全集／絵本の棚など



銀のデート

宮沢賢治『度十公園林』に次いで、みなさんに読んでもらいたい小説を1編。それは、^{いしだいら}石田衣良の『銀のデート』です。

子どものいない、壮年夫婦。その夫が「若年性アルツハイマー」に罹ってしまう。最後のシーンにジーーンときます。『再生』という1冊の中に収められている短編です。本校所蔵。

『再生』

石田衣良

角川文庫

⇒文庫の棚「い」



「なんだかあ、食うだけのものは食っちゃったような気がするだが」

信州のおばあさんのせりふです。胃腸の不調を訴えるおばあさん。それに答える主人公の医師。心温まる1編です。南木佳士の『海へ』の中に収められています。これもボクのお勧めです。

ただ、残念なこと(な)に本校に蔵書なく、出版社でも在庫切れです。とてもいい話なんだけれど。

南木佳士には、『冬物語』という作品もあって、その中の「ウサギ」という短編が、かつて教科書に載っていたこともあり、いいお話です。こちらも絶版。残念。どこかの図書館や古本で見つければ、ぜひ読んでみてほしい。

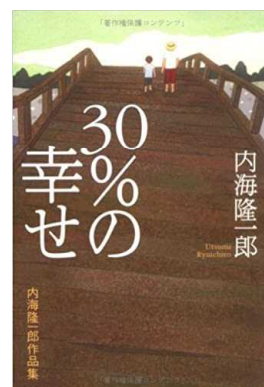
『海へ』 南木佳士 文春文庫

『冬物語』 南木佳士 文春文庫

芋ようかん

これもかつて教科書に載っていた短篇小説なんだけれど、とてもいいお話でした。そしてこれまた残念なこと(な)に絶版、本校所蔵なし。

芋ようかんといえば、浅草・舟和の芋ようかんを思い出します。この作者である内海隆一郎には、「人びとシリーズ」といわれる一連の作品があるのだけれど、じつに心温まる作品が多い。最近、『だれもが子供だったころ 新装版』という文庫版が河出書房から出ていますが、多くは絶版のままです。「芋ようかん」の話は、下記の単行本に所収。市立図書館なんかにはありそうな気がします。



『30%の幸せ 内海隆一郎作品集』 内海隆一郎 メディアパル

図書館のニオイ

図書館には独特の臭いが漂っていたりします。それは、古くなった紙やインクから発するニオイなんだろうと思います。ボクはあんまり中央図書館(常磐公園)のニオイが好きではありません。あそこは本のニオイというよりもカーペットとかソファに染みこんだニオイという気がします。雨の日などは最悪です。バスもそうですね。

話を戻して、古い図書館ほど収蔵図書も古いものが多く、換気も悪く、どんよりと「古くさい」ニオイが漂っているものです。図書館好きの人にはそんなニオイがたまらなのでしょうけれど、人間の100倍鼻がいいといわれるイヌの100倍鼻がいいと自負するボクは、古い本のニオイは好きではありません(学生時代は神田の古書店街には足繁く通いましたが)。普通の書店ではそんなニオイはしませんね?どんなに大型の書店でも。

で、うちの図書館はどうかというと、これがけっこう古い本が多く、しかも本棚にぎっしり本が詰まっている図書館なので、当然、古くさいニオイは発します。が、コロナこの方、夏は窓を開け、秋以降は換気扇を回しているため、ニオイがこもっていません。換気扇が大型なので、ちょっと音がうるさいですが、辛気くさいニオイがこもる図書館よりいいでしょ?今年は昼休みの勉強利用者が増えたのも、あながち悪い環境でもないからだと思っています。



最近、ニオイって「香害」といって、迷惑がられたり、なかには体調を崩してしまう人もいます。洗剤や柔軟剤で香りのきついものがあるらしく、そういうのは化学物質過敏症の人なんかには大変な迷惑なんだそう。夏場、外に干してある洗濯物から漂うニオイで、窓を開けられないという人もいますのだそうです。

ニオイって、感じ方は人それぞれなものです。また、否応なくかがされるニオイは押しつけがましく、なかば暴力的なものでもあります。自分は「いいニオイ」と思っている、それを否応なくかがされるというのは、人によっては苦痛・不快となるものなんですね。

図書館は、ニオイも音もなく、読書、調べ物、思索に集中できるのがいいと思います。



学問は何のためにするか

学生時代の先生は答えました。「身を美しくするためです」と、『大学・中庸』の講義を担当されていた、儒学の「五常」を地で行くような先生でした。「五常」とは、「仁・義・礼・智・信」の五つで、日常ふみ行うべき徳目とされたものです。

始業のチャイムと共に講義を始め、「きょうはこれで終わります」と言い終わった瞬間に終業のチャイムがなる、毎回、そんなカミワザのような講義をされる先生で、ご高齢でしたが背筋はピンと伸び、発話は明瞭。ですから、「学問は身を美しくするためにするのです」と言われると、納得せざるを得ない。そんな先生でした。

たくさんの漢学の先生が様々なことをおっしゃったが、そもそも儒学の祖である孔子は、同じ質問であっても、弟子に応じた答え方をしたように(たとえば『論語』の中で、「仁」とは何かと問われた孔子は、弟子ごとに違った答え方をしています)、さまざまなことを教えて下さったと思います。答えは一つでなくていいんだ、という安心感を得られたように思います。漢学の勉強をしてよかった、と思いました。

「欲しいものは買うな、必要なものを買いなさい」

これも、貧乏学生にはありがたい助言だったと思います。

「木っ端役人なんかになるな」

よく、融通のきかない公務員などを「木っ端役人」と言っていた先生がいました。上の顔色ばかりうかがって、保身に徹する一方で、役所以外の一般市民に対して高圧的な態度を取るような志の低い役人を「木っ端役人」と言っていました。まだ、社会のことなど知らないボクらは、聞いていて痛快でしたね。「闘う漢学者」といった感じで。さまざまなことについてよく全国紙にも投書、掲載されていました。

3年生のみなさん!一足早く、「卒業おめでとう!」 そのまえに、図書館からのお願いです。

本は返してね!

卒業までに必ず、忘れず、返しましょう!

先日こんなことがありました。推薦で合格した3年生が、進学予定先から指定した図書を読む課題が出されたそうです。その本を図書館で探しましたが、蔵書リストにはあるものの、5年ほど前に貸し出されたまんまになっていました。前にも書きましたが、そういう本がまだまだあるようなんですね。

今年の3年生にはそのようなことがないよう、お願いします。

でも、卒業までにはまだ間があります。進路の決まった人は読書しませんか? 卒業式前日、予行の日までに返してくれれば結構ですから。少しでも教養を身につけておきませんか? いつから? きょうよう!

＊ ＊ 第3期購入図書決定! ＊ ＊

本年度3期分の購入図書が決定しました。今回も生徒・教職員のみなさんからのリクエストの他、シリーズものの続き、古くなった本の更新、教科学習や探求学習・小論文・進路学習・教養全般に役立ちそうな本、行方不明本の補充、地元の小説の複本化などの観点で選びました。どうぞご利用ください(第2期購入は1冊のみ、急ぎの要望のあった本を1冊購入しています)。

	タイトル	著者名	出版社	NDC
1	私たちが図書館について知っている二・三の事柄	中村文孝ほか	論創社	010
2	中高生のための哲学入門「大人になる君へ」	小川仁志	ミネルヴァ	107
3	誰にも相談できません	高橋源一郎	毎日新聞出版	159
4	「前向きに生きる」ことに疲れたら読む本	南 直哉	アスコム	188
5	老師と少年	南 直哉	新潮文庫	188
6	事典 太平洋戦争と子どもたち	浅井春夫ほか	吉川弘文館	210
7	ソ連兵へ差し出された娘たち	平井美帆	集英社	210
8	太平洋戦争への道 1931-1941	半藤利一ほか	NHK出版	210
9	天災から日本史を読みなおす	磯田道史	中公新書	210
10	悲しみの夏	菊地慶一	中西出版	211
11	漢字ハカセ、研究者になる	笹原宏之	岩波ジュニア新書	289
12	S D G s は地理で学べ	宇野 仙	ちくまプリマー新書	290
13	これでいいのか北海道 道民探究編	昼間たかし	マイクロマガジン	291
14	これでいいのか北海道 まちの問題編	昼間たかし	マイクロマガジン	291
15	イースター島 不可思議大全	芝崎みゆき	草思社	297
16	イースター島に行く	野村哲也	中公新書	297
17	東欧・旧ソ連の国々	池上 彰	小学館	302
18	年寄りには本気だ はみ出し日本論	養老孟司・池田清彦	新潮選書	304
19	これから大人になる君たちへ	池上 彰	KADOKAWA	310
20	図解 いちばんやさしい地政学の本	沢辺有司	彩図社	312
21	プーチンの野望	佐藤 優	潮出版社	312
22	恐怖の地政学	T. マーシャル	さくら舎	319
23	世界から戦争がなくなる本当の理由	池上 彰	祥伝社	319
24	第三次世界大戦はもう始まっている	エマニュエル・ドッ	文春文庫	319
25	和の思想	長谷川 櫂	岩波現代文庫	361
26	法廷で裁かれる 日本の戦争責任	瑞慶山 滋	高文研	369
27	日本の教育、どうしてこうなった?	児美川孝一郎	大月書店	372
28	「使い捨てられる教師たち」の知られざる実態	佐藤明彦	時事通信社	374
29	かわはら先生の教師入門	川原茂雄	明石書店	374
30	怪談和尚の京都怪奇譚	三木大雲	文春文庫	388
31	わけあって絶滅しました。正	丸山貴史	ダイヤモンド社	482
32	わけあって絶滅しました。続	丸山貴史	ダイヤモンド社	482
33	わけあって絶滅しました。も〜っと	丸山貴史	ダイヤモンド社	482
34	にっぽんのスズメ	小宮輝之監修	カンゼン	488
35	ストレス脳	アンデシュ・ハンセ	新潮新書	491
36	最高の体調を引き出す超肺活	小林弘幸	アスコム	498
37	ストレスの9割は「脳の錯覚」	和田秀樹	青春新書イン	498
38	北海道でS D G s		北海道新聞社	519
39	私たちのサステナビリティ	エド尚悟	岩波ジュニア新書	519
40	国鉄	石井幸孝	中公新書	686
41	怒鳴られ駅員のメンタル非常ボタン	綿貫 渉	KADOKAWA	686
42	その本は	ヨシタケ・又吉直樹	ポプラ社	726
43	バスが来ましたよ	由美林嬉々	アリス館	726
44	メメント・モリ	藤原新也	朝日新聞出版	748
45	あゝ教科書が教えない日本語	山口謡司	中公新書	810
46	かなり気になる日本語	厚切りジェイソン	S B 新書	810
47	当て字・当て読み漢字表現辞典	笹原宏之	三省堂	811
48	漢字の現在	笹原宏之	三省堂	811
49	訓読みのはなし	笹原宏之	角川ソフィア文庫	811
50	エモい古語辞典	堀越英美	朝日新聞社	814
51	中高生のための文章読本	澤田英輔	ちくまプリマー新書	817
52	教養としての「ラテン語の授業」	ハンドルイン	ダイヤモンド社	892
53	作家たちの17歳	千葉俊二	岩波ジュニア新書	910
54	太宰よ!		河出文庫	910
55	高階杞一詩集		ハルキ文庫	911

56	P r a y H u m a n	崔 実	講談社文庫	913
57	アキラとあきら(上)	池井戸 潤	集英社文庫	913
58	アキラとあきら(下)	池井戸 潤	集英社文庫	913
59	あるじなしとて	大津佳之	P H P 文庫	913
60	駅の名は夜明	高田 郁	双葉文庫	913
61	おいしいご飯が食べられますように	高瀬隼子	講談社	913
62	掟上今日子の忍法帖	西尾維新	講談社	913
63	起終点駅(ターミナル)	桜木紫乃	小学館文庫	913
64	介護者D	河崎秋子	朝日新聞社	913
65	会社員、夢を追う	はらだみずき	中公文庫	913
66	彼女の家計簿	原田ひ香	光文社	913
67	希望の糸	東野圭吾	講談社文庫	913
68	錦繡	宮本 輝	新潮社	913
69	傲慢と善良	辻村美月	朝日文庫	913
70	塩狩峠	三浦綾子	新潮文庫	913
71	塩狩峠	三浦綾子	新潮文庫	913
72	小説 となりのトトロ	宮崎駿: 原作	徳間書店	913
73	信仰	村田沙耶香	文藝春秋	913
74	税金で買った本(3)	原作: ずいの	講談社	913
75	早朝始発の殺風景	青崎有吾	集英社文庫	913
76	続氷点(上)	三浦綾子	角川文庫	913
77	続氷点(上)	三浦綾子	角川文庫	913
78	続氷点(下)	三浦綾子	角川文庫	913
79	続氷点(下)	三浦綾子	角川文庫	913
80	だから見るなといったのに	恩田 陸	新潮文庫	913
81	誰もいない夜に咲く	桜木紫乃	角川文庫	913
82	続泥流地帯	三浦綾子	新潮文庫	913
83	続泥流地帯	三浦綾子	新潮文庫	913
84	ツナグ 想い人の心得	辻村美月	新潮文庫	913
85	泥流地帯	三浦綾子	新潮文庫	913
86	泥流地帯	三浦綾子	新潮文庫	913
87	寝ても覚めても	柴崎友香	河出文庫	913
88	眠れなくなるほど面白い古事記	吉田敦彦	日本文芸社	913
89	氷点(上)	三浦綾子	角川文庫	913
90	氷点(上)	三浦綾子	角川文庫	913
91	氷点(下)	三浦綾子	角川文庫	913
92	氷点(下)	三浦綾子	角川文庫	913
93	ふるさと銀河線	高田 郁	双葉文庫	913
94	ホテルローヤル	桜木紫乃	集英社文庫	913
95	無限の玄	古谷田奈月	ちくま文庫	913
96	やめるときも、すこやかなるときも	窪美澄	集英社文庫	913
97	よだかの片想い	島本理生	集英社文庫	913
98	夜に星を放つ	窪美澄	文藝春秋	913
99	落第騎士の英雄譚 1 1	海空 りく	SBクリエイティブ	913
100	落第騎士の英雄譚 1 2	海空 りく	SBクリエイティブ	913
101	落第騎士の英雄譚 1 3	海空 りく	SBクリエイティブ	913
102	落第騎士の英雄譚 1 4	海空 りく	SBクリエイティブ	913
103	落第騎士の英雄譚 1 5	海空 りく	SBクリエイティブ	913
104	落第騎士の英雄譚 1 6	海空 りく	SBクリエイティブ	913
105	落第騎士の英雄譚 1 7	海空 りく	SBクリエイティブ	913
106	落第騎士の英雄譚 1 8	海空 りく	SBクリエイティブ	913
107	落第騎士の英雄譚 0	海空 りく	SBクリエイティブ	913
108	そこに僕はいた	辻 仁成	新潮文庫	914
109	そして誰もゆとらなくなった	朝井リョウ	文藝春秋	914
110	芥川龍之介書簡集	石割 透	岩波文庫	915
111	徴兵体験 百人百話	阪野吉平	1 7 出版	916

112	聊齋志異 上		岩波文庫	923
113	聊齋志異 下		岩波文庫	923
114	世界の市場 おいしい! たのしい! 24のまちでお買い物	マリア・バーハレワ	河出書房新社	未分類
115	物語 イタリアの歴史	藤沢道郎	中公新書	未分類
116	物語 タイの歴史		中公新書	未分類
117	物語 シンガポールの歴史	岩崎育夫	中公新書	未分類
118	物語 北欧の歴史	武田龍夫	中公新書	未分類
119	物語 スコットランドの歴史	中村隆文	中公新書	未分類

読みどころ

No.43の『バスが来ましたよ』はとてもいい絵本です。昨年、話題になった本です。最後はちょっと目頭が熱くなります。

No.15・16のイースター島関連本ですが、昨年10月、イースター島で起きた火災でモアイ像約1000体のうち数百体が修復不能な被害を受けたそうです。モアイ像はなぜ、どのようにして作られたのか、どうしてイースター島から森林がなくなったのか、興味深いですね。

今回はNDC(日本十進分類法)で、000から900まで、かろうじてすべてのジャンルの本を選ぶことが出来ました。総記、哲学、歴史、国際情勢、健康、言語、小説等、幅広く選書していますので、どうぞ片っ端から手にとって見て下さい。選書って、結構大変なんです。毎日毎日適当な本はないか探しまくり、当たりをつけた本はどんな内容なのか、評判は? 著者名・出版社は? 税込み価格は? ISBNは? NDCは? と、1冊の本のいろんな情報も調べなくてはなりません。

活用して下さいね!!!!

新聞切抜き拾い読み

ここに上げた記事は、図書館前掲示板に掲示中です!

館内には北海道新聞(当日)・朝日新聞(前日)・あさひかわ新聞(週刊)の3紙があります。新聞を読む習慣を!



▼「答案用紙 受験校への『ラブレター』」 朝日新聞 12/17

4人の子どもを全員、東大理三に合格させたことで知られる「佐藤ママ」によるコラムです。

受験本番の答案用紙に書く文字は、答案用にの向こうに採点者がいることを意識して、気持ちよく採点してもらえるような文字でなくてはならない、と説きます。学校のテストは、あなたのことを知っている先生が、答案用紙の向こうにいるあなたを思い浮かべながら採点してくれる。しかし入学試験はそうはいかず、あなたの書いた文字だけを見て採点するのだから、字が汚くて読みにくいというのは「論外」だと。

「この学校に入学したいので、一生懸命に問題を解き、心を込めて答案を仕上げましたので、どうぞ見て下さい」という気持ちで書くべしと。心を込めながらも早く丁寧に書ける練習をしよう、とも。最後に、答案用紙は、採点者に出す「ラブレター」だということ。本番で振られないように、心を込めて書いてくださいと締めくくっています。

確かに。入学試験って、ある意味では「落とす」ための試験なんです。きちんと答えられている答案と、そうでない答案とは、厳しく峻別されるものなんです。「落とされない」ような答案を、作りましょう。

▼「荷物届かない『2024年問題』」 朝日新聞 12/14

2024年からトラックドライバーの長時間労働が見直される。トラックの運転手不足は、残業規制で深刻化するのだとか。政府は「物流クライシス」に備えた対応を取る方針。

▼「『姑息』はひきょう? 異なる使い方浸透 文化庁国語世論調査」 朝日新聞 10/24

「姑息」「割愛」、どのように使っていますか? そんな書き出しで、2021年度の文化庁「国語に関する世論調査」の主立った結果を報じています。毎年話題になります。

そうだ! 図書館へ行こう! 冬こそ読書!!

三浦綾子記念文学館、井上靖記念館、旭川文学館にも行ってみよう!

(文責 伊丸岡圭一)